

第6節 保育者養成課程におけるカリキュラム比較

— 短期大学、専門学校、大学について —

川 俣 美砂子 (福岡女子短期大学)

1. 問題の所在

本稿は、国家資格を取得するための養成課程の中で、非大学型高等教育における免許・資格取得が可能な保育者養成課程に着目し、幼稚園教諭免許状及び保育士資格取得に関連する大学、短期大学、及び専修学校の養成課程を比較検討するものである。比較検討する内容は、免許・資格取得のための①養成カリキュラム、カリキュラムによって編成される授業を教授する②教員、授業を受ける③学生の3項が考えられる。ここでは、学校種による①養成カリキュラムと②教員に関する検討を行う。そのためにまず、保育者養成課程についての国内外の先行研究から現状を把握する。

2. 保育者養成課程についての先行研究

2.1 わが国の養成課程について

わが国では、幼稚園教諭免許状取得のためには、幼稚園教員養成課程として認可されている大学院・大学・短期大学・専修学校で、免許取得に必要な単位を修得する。免許状には、専修免許状（修士）、一種免許状（学士）、二種免許状（短期大学士）がある。

保育士資格は、①大学、短期大学、専修学校を卒業②保育士試験に合格の2つの取得方法がある。卒業した学校種による資格段階の差はない。

北野(2009)によると、幼稚園教諭免許と保育士資格の両方取得できる養成コース(対象は2006年 i-kosodate.net 掲載の養成コース503コース)は、4年制75%、3年制84%、2年制82%で、どちらの免許資格も取得できる養成コースが多い。また、養成コース全体のうち、4年制は28%、専修学校は18%、短期大学は52%、施設2%で、現在のところ短期大学が主流である。2006年に新しく設置された養成コースは、4年制21コース(55%)、専修学校6コース(16%)、短期大学11コース(29%)で、4年制の養成コースの増加が目立った。

以上のように、わが国の保育者養成課程は、現在は2年制コースが主流で、どちらの免許資格も取得できる養成コースが多く、新規設立の場合は、4年制が多い。

2.2 諸外国の養成課程について

続いて、諸外国のいくつか的特色的な養成課程について概観する。

EU諸国における乳幼児保育職員の養成は、大学もしくは職業高等教育学校で行われ、最短期間は3年である。そのうち、フィンランドでは、資格制度が保育の形態に応じた多様なものとなっており、大きくは、①幼稚園教師②社会教育士③保育所保育者④プレイグループリーダー⑤家

庭委託保育者に分類される。幼稚園教師は最低3年間大学に通い、学士の学位を持つことが必須となっている。幼稚園教師の資格を持つ者の中には、修士の学位を持つ者もあり、家庭委託保育者のスーパーバイザーや、就学前学校の教師職に従事することもできる。保育所保育者は後期中等教育段階における3年間の職業訓練の後に取得できる。しかし、職務上の権限が制限されており、保育を行うグループの一員となることはできるが、保育計画を作ることはできない。

イギリスでも、幼稚園教諭と保育士の資格取得の方法は異なり、教師を保育所に配置することで、幼児教育の質的レベルを上げるという考え方である。スペインやドイツの養成計画では、カレッジ・レベルの内容を終えた後に、現場実習が引き続き行われるというものである。

アメリカ（カリフォルニア州）で幼稚園教諭免許を取得するには、4年制大学を卒業し、B.A. (Bachelor of Arts) を取得して、Teaching Credential Program（教諭免許課程）に入る必要がある。また、Teaching Credential Programに入る前の段階で、CBEST (California Basic Educational Skills Test) や CSET (California Subject Examinations for Teachers) のテスト等、多くのステップが存在しており、志望動機が明確でない学生、教員としての適正に欠ける学生、基礎学力が十分に備わっていない学生に対する、ある意味スクリーニング機能を伴っていると考えられる。さらに、Teaching Credential Programに入った後も、14週間の Final Student Teaching（最終教育実習）や RICA (Reading Instruction Competence Assessment) のテスト等のプロセスを経験する必要がある。

以上のように、今回参照した諸外国における養成課程では、養成年数が3年制以上のところが多く見られ、幼稚園教諭と保育士の資格取得方法が異なる国もあった。また、入学前に多くのステップが存在していたり、実習が養成カリキュラム終了後に行われていたり、長期であったりする場合も見られた。

3. 保育者養成カリキュラムの現状

以上のような、国内外の保育者養成課程の概観を踏まえた上で、わが国の保育者養成カリキュラムについて、大学、短期大学、専門学校の事例を見ていく。

3.1 履修科目・単位数から見る保育者養成カリキュラム

大学（4年制）、短期大学（2年制）、専門学校（3年制）の養成課程における幼稚園教諭一種免許状、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格に関わる科目及び単位数についての、現状を把握するため、次の表1「幼稚園教諭免許状・保育士資格取得に要する最低単位数」（文部科学省）を使用する。表2・表3は、F県のQU1大学（4年制）、QJ1短期大学（2年制）、QP2専門学校（3年制）について、各校の2009年度学生（学習）便覧を参照に、養成カリキュラムの科目及び単位数について表したものである。

幼稚園教諭免許状取得について概観する。表1のように、幼稚園教諭免許状取得のための最低修得単位数は、幼稚園教諭一種（以下、一種）124単位、幼稚園教諭二種（以下、二種）62単位である。単位数差は、「教育職員免許法施行規則第66条に定められる科目」（日本国憲法・体育・外国語コミュニケーション等）10単位を含む、「一般教育科目等」において大きく、一種73単位、二

表1 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得に要する最低単位数

幼稚園教諭免許状		単位数		保育士資格		単位数
		一種	二種			
一般教育科目等	日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器操作(各2単位)は必修	73	31	教養科目	必修 体育(講義・体育実技) 選択必修 外国語等	26
教科に関する科目	国語、算数、生活、音楽、図画工作、体育のうち1以上の科目 (例 幼児音楽、幼児体育)	6	4	基礎技能	(内容 音楽、図画工作、体育等) 必修 選択必修	4 ※
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割(例 教職概論) ----- 教員の職務内容(研修、服務等を含む) ----- 進路選択に資する各種の機会の提供等	2	2			
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 (例 教育原理、教育学概論、教育史) ----- 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) (例 教育心理学、発達心理学) ----- 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (例 教育社会学、教育行財政)	6	4	保育の本質・目的の理解に関する科目	必修 社会福祉、社会福祉援助技術、児童福祉、保育原理、養護原理、教育原理 選択必修	14 ※
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 ----- 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)(例 保育方法論、幼児教育方法) ----- 保育内容の指導法 (例 保育内容(生活と健康)、言葉指導法、保育内容(人間関係)、表現教育論)	18	12	保育の対象の理解に関する科目	必修 発達心理学、教育心理学、小児保健 小児栄養、精神保健、家族援助論 選択必修	15 ※
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法(例 幼児心理学) ----- 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 (例 カウンセリング概論)	2	2			
総合演習		2	2	総合演習	必修	2
教育実習(事前及び事後の指導の1単位を含む)		5	5	保育実習	必修 保育実習 選択必修	5 2
教科又は教職に関する科目		10	—	選択必修(上記※の科目から)		8
最低修得単位数		124	62	最低修得単位数		68

文部科学省中央教育審議会幼児教育部会(2004)

種31単位である。教職に関する科目については大きな差はない。表2を見ると、特に「教科に関する科目」において、一種は、科目の選択肢が広い。「教職に関する科目」では、「保育内容」についての科目において、一種は2単位ずつで、二種では1単位ずつである。教育実習については、一種・二種とも5単位で変わりはない。

保育士資格(以下、保育士)については、一種・二種の別はなく、68単位が必要(表1)で、養成年限にも関わりが無い。幼稚園教諭二種免許と比較すると、二種62単位、保育士68単位で取得単位数に大差はない。「教養科目」について見ると、一種73単位、二種31単位に比べ、保育士は8単位と少ない。代わりに、「保育の本質・目的の理解に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」についての単位数が保育士は多い。

表2 【幼稚園教諭免許状】

幼稚園教諭一種免許状 QJ1 短期大学（4年制）				幼稚園教諭二種免許状 QJ1 短期大学（2年制）				QJ2 専門学校（3年制）			
-----------------------------	--	--	--	-----------------------------	--	--	--	---------------	--	--	--

■教科に関する科目および単位数

免許法による		左記に該当する開設授業科目	単位数	修得すべき単位数 必修及び選択必修科目より修得
科目	単位数			
音 楽	6	音楽 A (器楽基礎)	1	2
		音楽 A (器楽応用)	1	
		△ 音楽 B (声楽基礎)	1	
		△ 音楽 B (声楽応用)	1	
		音楽 C (合奏又は合唱)	1	
		電子楽器奏法	1	
		音楽理論	2	
		音楽概論 I	2	
		音楽概論 II	2	
		美術概論	2	
図 画 工 作	6	○ 造形基礎 I	1	2
		○ 造形基礎 II	1	
		造形応用 I	1	
		造形応用 II	1	
体 育	6	△ 体育概論	2	2
		△ 幼児体育概論	2	
		○ 幼児体育 (実技基礎)	1	
		△ 幼児体育 (実技応用)	1	
		△ 体育実技 I	1	
		△ 体育実技 II	1	
国 語	6	国語学概論 I	2	-
		国語学概論 II	2	
		児童文学	2	
		国語表現学	2	
算 数	6	数学概論 I	2	-
		数学概論 II	2	
		数学概論 III	2	
		数学総論	2	
生 活	2	生活科概論	2	-

必修及び修得した選択必修以外の科目より10単位以上修得

免許法による	該当する科目	単位数		該当する科目	単位数	
		必修	選択		通信	面接
4	音楽 1	1		音楽 I		2
	音楽 2	1		音楽 II	2	
	図画工作	1		図画工作		1
				図画工作 II	1	
4	幼児体育		1	幼児体育		1
				幼児体育 II	1	
	日本語表現	2		国語	1	1
	暮らしと園芸		2			

■教職に関する科目および単位数

教職の意義などに関する科目	単位数	○ 教師論	単位数	2
教育の基礎理論に関する科目	6	○ 教育の理念と歴史	2	6
		○ 子どもの発達と学習	2	
		○ 教育の制度と経営	2	
教育課程及び指導法に関する科目	18	○ 保育課程総論 I	2	18
		○ 保育課程総論 II	2	
		○ 保育内容の研究 (健康)	2	
		○ 保育内容の研究 (人間関係)	2	
		○ 保育内容の研究 (環境)	2	
		○ 保育内容の研究 (言葉)	2	
		○ 保育内容の研究 (表現)	2	
		○ 保育指導研究法	2	
		○ 保育指導方法論	2	
		生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	
総合演習	2	○ 教育総合演習	2	2
教育実習	5	○ 教育実習研究	1	5
		○ 教育実習 I	2	
		○ 教育実習 II	2	
		○ 教育実習 V	2	

2	幼児教育教師論	2		教師論	2	
4	教育原論	2		教育原理	2	
	保育原理 1	2		教育心理学	2	
	発達心理学	2				
	教育心理		2			
12	教育課程総論	2		教育課程総論	2	
	保育内容総論	2		健康 (指導法)	1	
	保育内容 (健康)	1		人間関係 (指導法)	1	
	保育内容 (環境)	1		環境 (指導法)	1	
	保育内容 (人間関係)	1		言葉 (指導法)	1	
	保育内容 (言葉)	1		表現 I (指導法)	1	1
	保育内容 (表現)	1		表現 II (指導法)	1	1
	保育内容 (造形)	1		表現 III (指導法)	1	1
	幼児教育方法論	2				
	障害児保育		1	保育指導	1	1
2	幼児理解と教育相談	2		教育相談	2	
2	総合演習 1	1		総合演習	1	1
	総合演習 2	1				
5	教育実習指導	1		事前・事後指導	1	
	教育実習	4		教育実習	4	

■免許法施行規則第66条に定める科目

2	日本国憲法	○ 法学	4	4
2	体 育	○ スポーツ実習 I	1	2
		○ スポーツ実習 II	1	
		○ スポーツ実習 III	1	
		○ スポーツ実習 IV	1	
		○ スポーツ理論 I	1	
		○ 外国語コミュニケーション	2	
2	外国語コミュニケーション	○ 教育情報処理	2	2
		情報処理基礎	4	
		情報処理応用 I	2	
		情報処理応用 II	2	
		情報処理応用 III	4	

2	日本国憲法	2		日本国憲法	2	
2	生涯体育理論と実践 1	1		健康科学	1	
		生涯体育理論と実践 2	1		生涯スポーツ	1
2	英語 1	2		英会話 I	1	1
				英語 2		
				中国語 1		
				中国語 2		
				韓国語 1		
				韓国語 2		
				イタリア語 1		
				イタリア語 2		
2	基礎情報科学演習 1	1		情報処理 I	1	1

表3 【保育士資格】

■必修科目

告示別表第1による教科目				Q11大学（4年制）				Q11短期大学（2年制）				QP2専門学校（3年制）			
系 列	教科目	授業形態	単位数	本学の該当する科目及び単位数				本学の該当する科目及び単位数				本学の該当する科目及び単位数			
				左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	必修 選択	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	必修 選択	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数	必修 選択
保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉	講義	2	社会福祉学	講義	2		社会福祉	講義	2		社会福祉Ⅰ	講義	2	
	社会福祉援助技術	演習	2	社会福祉援助技術	演習	2		社会福祉援助技術1	演習	1		社会福祉Ⅱ	演習	1	
								社会福祉援助技術2	演習	1		社会福祉援助技術2	演習	1	
	児童福祉	講義	2	児童福祉学概論	講義	2		児童福祉	講義	2		児童福祉	講義	2	
	保育原理	講義	4	保育原理Ⅰ	講義	2		保育原理Ⅰ	講義	2		保育原理	講義	4	
				保育原理Ⅱ	講義	2		保育原理Ⅱ	講義	2					
	養護原理	講義	2	養護原理	講義	2		養護原理	講義	2		養護原理	講義	2	
教育原理	講義	2	教育の理念と歴史	講義	2		教育原論	講義	2		教育原理	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	講義	2	発達心理学Ⅰ	講義	2		発達心理学	講義	2		発達心理学	講義	2	
	教育心理学	講義	2	子どもの発達と学習	講義	2		教育心理	講義	2		教育心理学	講義	2	
	小児保健	講義	5	小児保健Ⅰ	講義	2		小児保健Ⅰ	講義	2		小児保健	講義	4	
				小児保健Ⅱ	講義	2		小児保健Ⅱ	講義	2					
				小児保健学実習	実習	1		小児保健実習	実習	1		小児保健実習	実習	1	
	小児栄養	演習	2	小児栄養学演習	演習	2		小児栄養Ⅰ	演習	1		小児栄養	演習	2	
								小児栄養Ⅱ	演習	1					
保育の内容・方法の理解に関する科目	精神保健	講義	2	精神保健学	講義	2		精神保健	講義	2		精神保健	講義	2	
	家族援助論	講義	2	家庭概論Ⅰ	講義	2		家族援助論	講義	2		家族援助論	講義	2	
	保育内容	演習	6	保育課程総論Ⅰ	演習	2		保育内容（健康）	演習	1		健康	演習	1	
				保育内容の研究（健康）	演習	2		保育内容（環境）	演習	1		人間関係	演習	1	
				保育内容の研究（言葉）	演習	2		保育内容（人間環境）	演習	1		環境	演習	1	
								保育内容（言語）	演習	1		言葉	演習	1	
								保育内容（表現）	演習	1		表現Ⅰ	演習	2	
乳児保育	演習	2	乳児保育Ⅰ	演習	2		乳児保育Ⅰ	演習	1		乳児保育	演習	2		
							乳児保育Ⅱ	演習	1						
障害児保育	演習	1	障害児保育論	演習	2		障害児保育	演習	1		障害児保育	演習	1		
養護内容	演習	1	養護内容	演習	2		養護内容	演習	1		養護内容	演習	1		
基礎技能	基礎技能	演習	4	音楽A（器楽基礎）	演習	1		音楽1	演習	1		音楽Ⅰ	演習	2	
				音楽B（声楽基礎）	演習	1		音楽2	演習	1					
				造形基礎Ⅰ	演習	1		図画工作	演習	1		図画工作	演習	1	
				幼児体育（実技基礎）	演習	1		幼児体育	演習	1		幼児体育	演習	1	
保育実習	保育実習	実習	5	保育実習研究	実習	1		保育実習指導	実習	1		保育実習	実習	5	
				保育実習Ⅰ	実習	4		保育実習Ⅰ	実習	2		（事前事後含む）			
総合演習	総合演習	演習	2	保育総合演習	演習	2		総合演習Ⅰ	演習	1		総合演習	演習	2	
								総合演習Ⅱ	演習	1					
合 計			50単位			52単位（≥50単位）				50単位				50単位	

■選択必修科目

通知別表による教科目				本学の該当する科目及び単位数				本学の該当する科目及び単位数				本学の該当する科目及び単位数			
系 列	教科目	授業形態	単位数	本学の該当する科目及び単位数				本学の該当する科目及び単位数				本学の該当する科目及び単位数			
				教科目	授業形態	単位数	必修 選択	教科目	授業形態	単位数	必修 選択	教科目	授業形態	単位数	必修 選択
保育の本質・目的の理解に関する科目	児童福祉	講義	2	児童福祉事業論	講義	2		幼児教育教師論	講義	2		児童福祉Ⅱ	講義	2	
	教育原理	講義	2	教育の制度と経営	講義	2		幼児教育方法論	講義	2					
	保育学	講義	2	保育学特講	講義	2		幼児理解と教育相談	講義	2					
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	講義	2	発達心理学Ⅱ	講義	2		児童文化	講義	2		乳幼児心理学	講義	2	
	臨床心理学	講義	2	臨床心理学Ⅰ	講義	2					青年心理学	講義	2		
	教育相談	講義	2	教育カウンセリング	講義	2					小児栄養実習	実習	1		
	家庭概論	講義	2	家庭概論Ⅱ	講義	2									
	体育概論	講義	2	幼児体育概論	講義	2									
保育の内容・方法の理解に関する科目	保育内容	演習	6	保育課程総論Ⅱ	演習	2		保育内容総論	講義	2		健康Ⅱ	演習	1	
				保育内容の研究（人間関係）	演習	2					言葉Ⅱ	演習	1		
				保育内容の研究（環境）	演習	2					表現Ⅱ	演習	1		
				保育内容の研究（表現）	演習	2					表現Ⅲ	演習	1		
				保育指導研究法	演習	2					養護内容	演習	1		
				保育指導方法論	演習	2					児童文化	演習	2		
乳児保育	演習	2	乳児保育Ⅱ	演習	2										
児童文化	演習	2	児童文化	演習	2										
基礎技能	基礎技能	演習	4	音楽A（器楽応用）	演習	1		音楽3	演習	1		音楽Ⅱ	演習	2	
				音楽B（声楽応用）	演習	1		音楽4	演習	1		図画工作Ⅱ	演習	1	
				造形基礎Ⅱ	演習	1		リズム表現	演習	1		幼児体育Ⅱ	演習	1	
				造形応用Ⅰ	演習	1		造形表現	演習	1		国語	演習	2	
				造形応用Ⅱ	演習	1		日本語表現	講義	2					
				幼児体育（実技応用）	演習	1		幼児ダンス	演習	1					
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2	いずれか1つ必修	保育所実習Ⅱ	実習	2	いずれか1つ必修	保育実習Ⅱ	実習	2	いずれか1つ必修
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ	実習	2		施設実習Ⅱ	実習	2		保育実習Ⅲ	実習	2	
合 計			19単位以上		16科目（≥8科目）	42単位（≥19単位）			19単位（≥19単位）					19単位（≥19単位）	

表3を見ると、授業形態については、講義・演習・実習の別に学校間差はない。しかし、こちらに関しても、いくつかの同種の科目において4年制で2単位、2、3年制で1単位の場合が見られる。保育実習に関しては、これも4年制と2、3年制の差はなく、いずれも5単位である。

以上のように、わが国の幼稚園免許状取得のための科目及び単位数は、保育士資格取得と比較して一般教育（教養）科目の単位数が多く、一種免許取得となるとさらに増える。また、二種免許取得と保育士資格取得の総単位数に大きな差はないが、保育士資格取得については、一般教育（教養）科目が少ない分、福祉・心理に関する科目が多いということが確認できた。また、実習の単位数は、幼稚園教諭一種免許と二種で違いはなく、4年制での保育士資格取得と2、3年制での取得も同様である。

3.2 聞き取り調査から見る保育者養成カリキュラム

以上は、各校学生（学習）便覧を参考に、免許資格取得のための履修科目の比較を行ったが、それだけでは、各学校種の特色的部分には踏み込めていない。そこで次からは、各学校の概況や教育内容、教育組織について、聞き取り調査にて把握していく。

調査対象は、先に養成カリキュラムの比較を行ったQU1大学（4年制）、QJ1短期大学（2年制）、QP2専門学校（3年制）、及び4年制大学はその修業年限からも幅広い特色があることが考えられるので、もう1校QU2大学（4年制）を加えた。

対象校の概況は、本稿に関係のある内容のみをピックアップして、表4のようにまとめた。

表4 学校の概況について

項目	QU1大学（4年制）	QU2大学（4年制）	QJ2短期大学（2年制）	QP2専門学校（3年制）
調査対象校の学部数	6学部	3学部	—	—
調査対象学部中の学科数	2学科（教育福祉系）	1学科2専攻（教育福祉系）	5学科（総合系）	8学科（医療福祉系）
在籍者数（1学年）	約110名	約115名	約70名	約30名
免許・資格取得率	小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格の3つを取得するとすると、授業が過密になり過ぎるので、2つ取得を勧めている。3つとるのは10名位。免許取得者数は①幼稚園②小学校③保育士の順。	ほとんどの学生が幼稚園教諭一種免許・保育士資格ともに取得する。	ほとんどの学生が幼稚園教諭二種免許・保育士資格ともに取得する。（平成20年度3月卒業生58名中：保育士資格取得者58名、幼稚園教諭二種免許取得者54名、卒業のみ0名）	ほとんどの学生が幼稚園教諭二種免許・保育士資格ともに取得する。（平成20年度3月卒業生55名中：保育士資格取得者55名、幼稚園教諭二種免許共取得者53名、卒業のみ0名）
卒業後の進路状況	卒業後の進路は、幼稚園と保育園を合わせて2、30名位。小学校は20名位。割合としては、一般企業が一番多い。	約8割が保育関係に就職。	約9割が保育関係に就職。	約9割が保育関係に就職。
グループ校、系列校の有無について	小学校、中学校、高校、幼稚園、保育園	短期大学部、女子中学、女子高校、男子高校、幼稚園、保育園、調理師専門学校	4年制大学、幼稚園	保育園、病院、福祉施設、専門学校

表のように、専門学校は医療福祉に関する多様な学科が設置されている。4年制大学はどちらも1学年の人数が多い。免許・資格に関しては、QU1大学は学科の方針もあり、保育士資格を取

得する学生は幼稚園、小学校免許取得者と比較して少ない。他の3校は、ほとんどの学生が幼稚園教諭免許と保育士資格のどちらも取得する。卒業後の進路は、短期大学及び専門学校の方が保育職へ就く学生が多く、特に、QU1大学はQU2大学よりも極端に保育職に就く学生が少ない。調査校4校とも、グループ・系列校を持っている。

次に、教育の内容と方法について表5のようにまとめた。

表5 教育の内容と方法

項 目	QU1 大学（4年制）	QU2 大学（4年制）	QJ1 短期大学（2年制）	QP2 専門学校（3年制）
カリキュラム構成時に準拠・参照するものなど	外部からの助言はないが、他大学を参考にすることはある。	厚生労働省、文部科学省からの単位数に準拠しているが、開設時は、先行の大学を参考にして編成した。	資格・免許のためのカリキュラムは、厚生労働省、文部科学省からの単位数に準拠している。	短期大学通信制併修のため、資格・免許取得のためのカリキュラムは、決まっている。専門学校におけるカリキュラムについては、他校を参照にするというより、本校の学生の状況に応じて変更し、構成している。
職業専門的な側面における深さや広さ、新しさに対して、特に意識していること	特色的科目はないが、それぞれの科目で特色を出すようにしている。キリスト教学が2年間ある。	初年次教育として、「基礎演習1, 2」を行っている。内容は、専門科目の基礎、大学とはどんなところか。帰属意識を持たせる。指導主任制度を使って、レポートな書き方、図書館の使い方、幼・保の見学など。	乳幼児教育保育において求められる、音楽、英語、園芸の3コース（内1コースを選択）を設置している。	合奏、手話など、適宜導入。マナー（3年間）・ペン字（3年間）を行っている。
特に工夫している教授方法や設備・仕組みなど	造形と音楽のコマ数が多い。	家政学部関係の授業はほとんどなくなったが、「食と保育」の授業を選択で残した。ピアノが現場で必要であるから、音楽の授業は免許法以上に個人レッスンで行っている。「保育経営論」、「障害児の心理」、「新生児医学」は、免許法の中に、妊娠から新生児期の学習がないため、設けている。	短大2年間での成長のみならず、10年後の姿を見据え、「社会人入門」という2年間通して、環境、保険、就職などさまざまなジャンルの講演を聞く授業がある。クラスアドバイザー制度。	学生がやりがいを感じられる授業を多く取り入れる。近隣の小学校で学生が企画した連携授業を行う、自分達で植えた稲を収穫するなど。クラス担任制。
使用しているテキストについて	担当教員が決定する。	担当教員が決定する。	担当教員が決定する。	短期大学通信教育部によって選定されている。
実習、研修の時期や、期間	実習に行くことで進路が変わることもある。保育実習12日間、施設は10日間…2年次。幼稚園実習は12日間…3年次。4年生になると、就職のための自主実習に行く。単位実習先は、一覧表から学生が選び、教務課で振り分ける	保育所実習は10日間、幼稚園実習は12日間。単位実習は3年生からなので、それ以外の実習は、園の了承が得られれば、見学実習を行っている。	1年次2月保育所実習、3月施設実習。2年次6月幼稚園実習、8月保育所実習、9月幼稚園実習をそれぞれ10日間行っている。採用試験前に自主実習に行くことが多い。	1年次2月保育園／2年次6月幼稚園 11月幼稚園／3年次7月保育園、8月施設。自主実習、体験実習の機会が、1年次からある。
実習のための事前事後指導	保育実習研究15コマ。2年次の8月に実習に行くので、5月くらいから始まる。	「実習研究」として行っている。今後は、もう少し増やそうと計画している。	保育実習指導・教育実習指導の授業をそれぞれ、15コマずつ行っている。	実習指導→予約→実習指導→実習審査（不合格の場合は居残り）→実習→実習報告会という流れがある。※実習指導の授業は、1年次前期～3年次前期までである。

表のように、QP2 専門学校は短期大学通信制を併修することによって、免許資格を取得する。カリキュラムは、短期大学通信制による科目以外は、比較的自由に変更できる。そのため、他の3校に比べて、手話、マナー、ペン字などの特色的科目が多い。1学年の人数が比較的少ないQJ1短期大学、QP2 専門学校には、クラス担任やアドバイザー制度が設けられている。QJ1 短期大学及びQP2 専門学校の実習は、1年次2月から開始されるが、QU1 大学は2年次から、QU2 大学は3年次から始まる。

次に、教職員について表6のようにまとめた。

表6 教職員について

項 目	QU1 大学（4年制）	QU2 大学（4年制）	QJ1 短期大学（2年制）	QP2 専門学校（3年制）
教員・職員の職階と人数構成	教授18名、准教授2名、講師・助教0名、非常勤講師は音楽に多い。	教授15名、准教授8名、講師5名、助教1名、助手（体育、美術が多い）6名	教授3名、准教授2名、講師4名（実務経験者2名）	常勤教員3名（全員実務経験者：学士1名、準学士2名）
教員や職員の採用ルート	公募	公募	公募及び紹介	公募（新聞掲載）、紹介など
現職教員の研修体制の整備状況	学会、研究会の出席など、研修体制は整備されている。	学会、研究会の出席など、研修体制は整備されている。	学会、研究会などへの出席は、奨励されている。	月1回外部講師による講演（マナーや企業設立についてなど）あり。教員の学術的研究の機会は整備されておらず、個人研究費はなし。
教員と職員の職務分掌及び連携状況	就職先訪問、高校訪問は、教員は行わない。要請があれば、高校へ出前授業へ出向く。実習の訪問は、学科教員が行く。	分かれている。高校訪問は基本的に教員は行わない。実習訪問は就職活動となる。	高校訪問は職員・教員共に行う。実習先訪問が就職活動となる就職指導は、職員及び教員も行う。	教員と職員の職務は明確に分かれている。就職先訪問は職員（広報課）が行い、それを教員へ伝達、教員が学生へ情報を伝える。

表のように、QU1 大学、QU2 大学共に教授職が多い。QP2 専門学校は教授、准教授などの職階はない。QU1・QU2 大学、及びQJ1 短期大学は、学会、研究会などへ参加の研修体制は整備されているが、QP2 専門学校は、教員の学術的研究の機会は整備されておらず、個人研究費は設定されていない。

4. まとめと今後の課題

保育者養成カリキュラムを概観して、①わが国の幼稚園教諭二種免許状取得のための科目及び単位数は、保育士資格取得と比較して一般教育（教養）科目の単位数が多く、一種免許状になるとさらに多い。しかし、一種免許状取得の場合でも、教職に関する科目はほとんど増えないので、養成年数の延長は、必ずしも保育領域の専門的養成教育の深化にはつながっていないことがわかった。また、②実習の単位数は幼稚園教諭一種免許状取得と二種免許状取得で差はない。ゆえに、ここからも養成年数の延長は、現場での実践経験の豊さにはつながっていると言えない。

また、今回の聞き取り調査から言えることは、①卒業時に、保育職に就く学生の割合は、4年制大学よりも短大、専門学校の方が多い。これは、4年制のほうがカリキュラム的にも余裕があ

り、保育分野以外を学ぶことも多いので、選択肢が広がるのかもしれない。また、②専門学校では、短期大学通信制を併修することによって、免許・資格を取得しており、通信制以外のカリキュラムは、比較的自由に変更できる。これによって、学生の興味・関心、社会の要請に応じたカリキュラムの編成が行われている。さらに、③専門学校には、教授、准教授などの職階はなく、教員の学術的研究の機会が整備されているとは言えない。クラス担任制があることや、非常勤講師数が多いことなどから、現在の専門学校教員に求められているのは、学術的研鑽よりも、学生指導や学校運営に関する技術の向上なのかもしれない。本稿では、こちらで限定した学校を対象とした調査から、導き出された結果を報告している。よって、非大学型高等教育における保育者養成課程のほんの一部を検討したに過ぎない。今後は、さらに広い対象校による調査が必要であると考えられる。

〈参考文献〉

- 北野幸子, 2009, 「ケア・教育・子育て支援を担う保育士養成の実態と課題」『社会福祉学』第50巻1号, 123-133頁
- パメラ・オーバーヒューマ, ミハエラ・ウーリッチ／泉 千勢 編訳, 2004, 『ヨーロッパの保育と保育者養成』大阪公立大学出版会
- 伊藤喬治, 2007, 「現代のフィンランドにおける〈保育〉制度と保育者養成」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育論叢』第50号, 25-33頁
- 山本和美, 2000, 「保育の質向上を目指す幼稚園と保育所の関係について——イギリスの幼児教育と保育における提携——」『乳幼児教育学研究』第9号, 71-82頁
- 渡邊哲也, 2005, 「アメリカ, カリフォルニア州における幼稚園教諭免許取得に関する考察」『新島学園短期大学紀要』第25号, 33-40頁
- 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育部会, 2004 「幼稚園教諭免許状・保育士資格取得に要する最低単位数」

付記：本稿の一部は、福岡女子短大紀要第73号（2010）に掲載されている。